



転生先で

×タ発言したら攻略対象の

王子

が

愛人

しました

PRESENTED BY BITA



彼を表現する言葉が  
あるとすれば

誠実、純白、  
どこまでも穏やかで  
清らかな

まさに理想の王子様  
という人であった

それが



一体どうしてこんなことに…!

は…♡

あッ

イ…♡

またイッ♡

イっちゃ

あ…♡

ほら

目を逸らしては  
なりませんよ





僕がずっと  
貴女をどういう目で  
見ていたのか

しかと  
確かめてください

…っ



転生先で

×の発汗はさっさと

攻略対家陣の

の

が

豹来

PRESENTED BY BITA

たて

ソフイ  
貴女を愛しています

王子である  
自分の立場はよく  
分かっています

それでも  
貴女が隣にいたらと  
願ってしまうのです

ゲームで何度も  
聞いたセリフ

でも

触れられて

熱が伝わるー…

スリ…♡



画面で見るのと  
全然違うー!!

大好きな乙女ゲームの  
世界に転生して一年

ついにこの時が  
来てしまった



僕の——この  
アルベール・ド・ヴァロワの  
生涯の伴侶と  
なってくださいますか？

っ…

この告白イベントに  
「はい」と答えれば  
エンディング



だけど…

ジュッ  
ジュッ  
ジュッ

告白は少し  
性急だったでしょうか

貴女のお気持ちを  
考えず先走ってしまい  
お恥ずかしい限りです

彼女だったら  
アルが恋に  
落ちるのも分かる

ソフィア・ド・レニエ  
このゲームのヒロイン

私が転生する前は  
何もかも完璧な  
美少女だった

いえ  
そんなことは！

アルのせい  
じゃなくて…  
問題は、私が…

でも  
アルが私なんかを  
好きになって  
くれるわけない

今アルが告白  
してくれるのは

私が攻略通りの  
選択肢を選んで  
きたから：

ソフィ

今日は  
帰りますね

動揺させてしまい  
申し訳ありません  
でした



よい夢を

（七）



…  
う

どうしよう  
アルは私のことを  
ソフィアだと思ってる

ソフィアだと思って  
愛してくれてる

それでは  
失礼いたします

いい加減  
本当の事を  
言わないと……っ

あ、あのっ

私……その  
実は……

?

ソフィアでは  
ないんです!

……え?



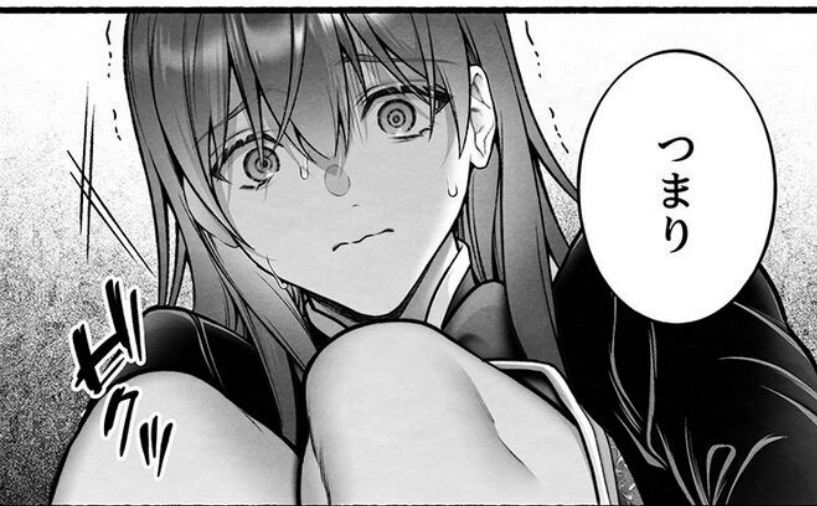
.....



……という感じで  
今お話しいしたことが  
全てです

一番好きなキャラ  
だからアルの好感度を  
上げるために何したら  
いいか全部覚えてて……

騙してしまって  
本当にごめんなさい！



つまり



この世界は全て  
シナリオ通りで

僕の気持ちも  
その中で定め  
られていたもの

要するに



僕の気持ちは  
作られたもの

——  
偽物だと

貴女は  
そう仰りたい  
のですか？

いいえ  
偽物なのは私です！

偽物の私がこのまま  
アルの隣にいること  
なんて出来ません

…ほう？

アルには本物の  
ソフィと添い遂げて  
もらいたくて…

アルベール・ド・  
ヴァロワ様の隣に  
いるべきなのは  
何もできない私  
なんかじゃなくて

あの完璧美少女な  
ソフィア・ド・  
レニエ様だと  
思うので…

…あ！

私なんとか  
元の世界に帰る  
方法を探るので

私がいなく  
なった後に  
本物のソフィと

タッ！！

…分かりました。

…いや  
これでいい

冷たい顔…

あ…

そもそもアルの  
お相手はソフィなのだ

「私」じゃない

少しの間夢を  
見せてもらえた  
だけで私は十分…

舐められた  
ものだな…

ホッ…

…え？

アル…？

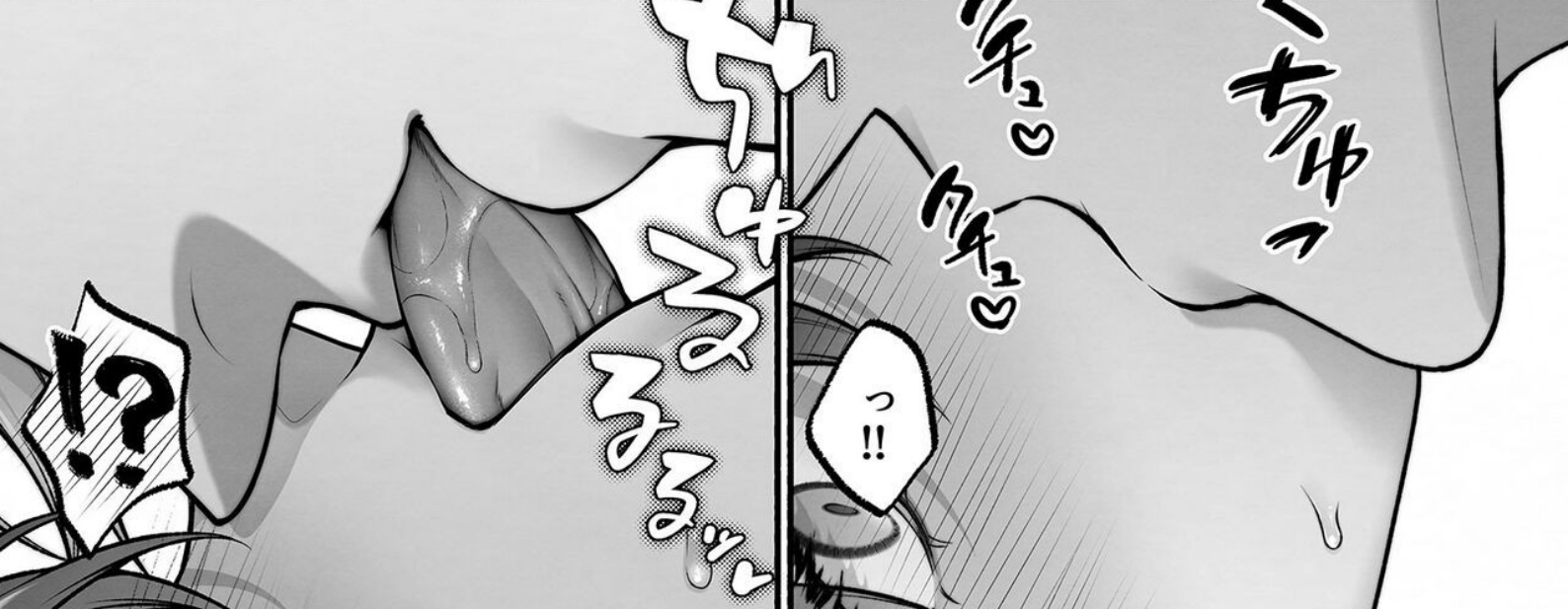
よく  
分かりましたよ

え

貴女が何も分かって  
いないというところが  
大変よく分かりました











なるほど

では作り物ではない  
本当の僕を見て  
いただきましようか

カキッ  
カキッ



随分驚いて  
いらっしやいますね

ゲームの登場人物である  
僕のはなんでも  
ご存じだったのでは？



だ、だって…  
こんなシーン  
ゲームじゃ…

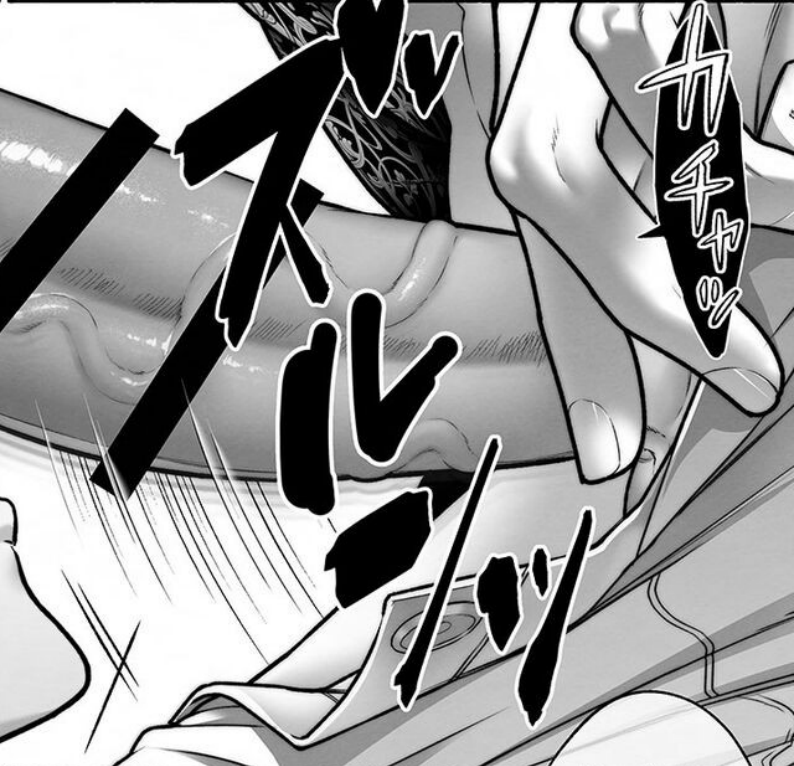
ありえない  
だってあのゲームは  
全年齢…



…ね？

っ

カキッ  
カキッ





貴女の知る僕は  
こんなことまで  
していましたか？

貴女を思って毎夜  
自らを慰めるような  
浅ましい男でしたか？

まって…  
待って

あの…

駄目ですよ

逃がしません

本当の僕の姿を貴女に  
分かっていただけるとまで

決して離しません

…っ





ちゃんと聞いて  
確かめてください

逃げたいからといって  
適当な事を言うのは  
感心しませんね



貴女の知る僕と  
今ここにいる僕の  
考えている事が

果たして  
同じなのか



貴女は目の前の男を  
誰にも公平で  
優しい男だと  
思っていたでしょう？

けれど僕は貴女が  
誰かに微笑む度に  
嫉妬で気が狂いそうだった

れいん

っ…



その度に貴女を  
犯し孕ませて  
もう逃げられないように  
したいと  
考えていたのですよ

!

ギョッ

そ、そんな…

アルがそんなこと  
考えるわけ…

ワァッ

私なんか  
相手に…



…そうですね

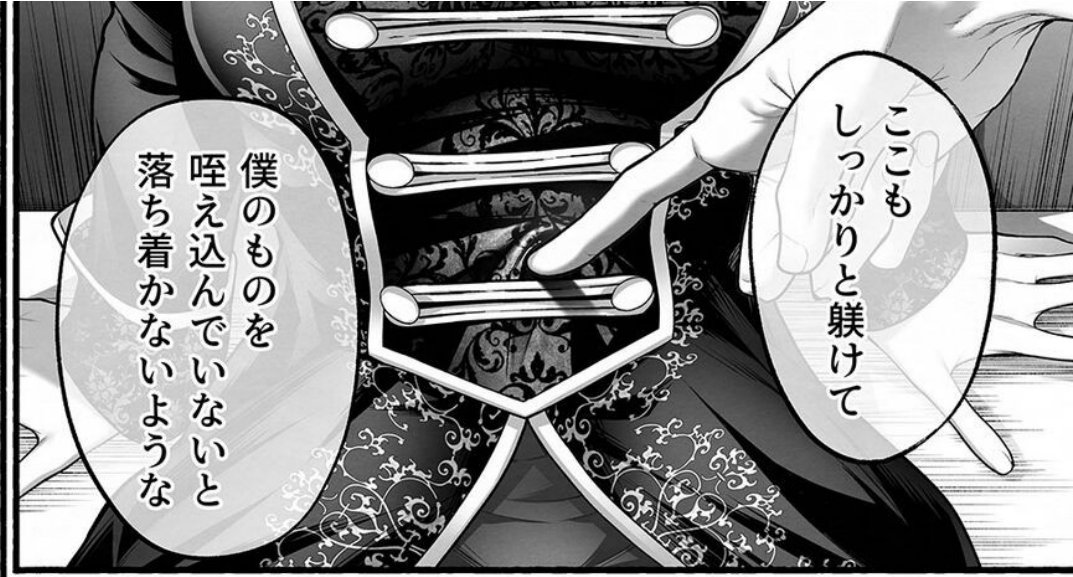
「王子と  
しての僕」は  
そんなこと  
しないでしよう

ですが本当の  
僕はこのように  
下劣な男なのです



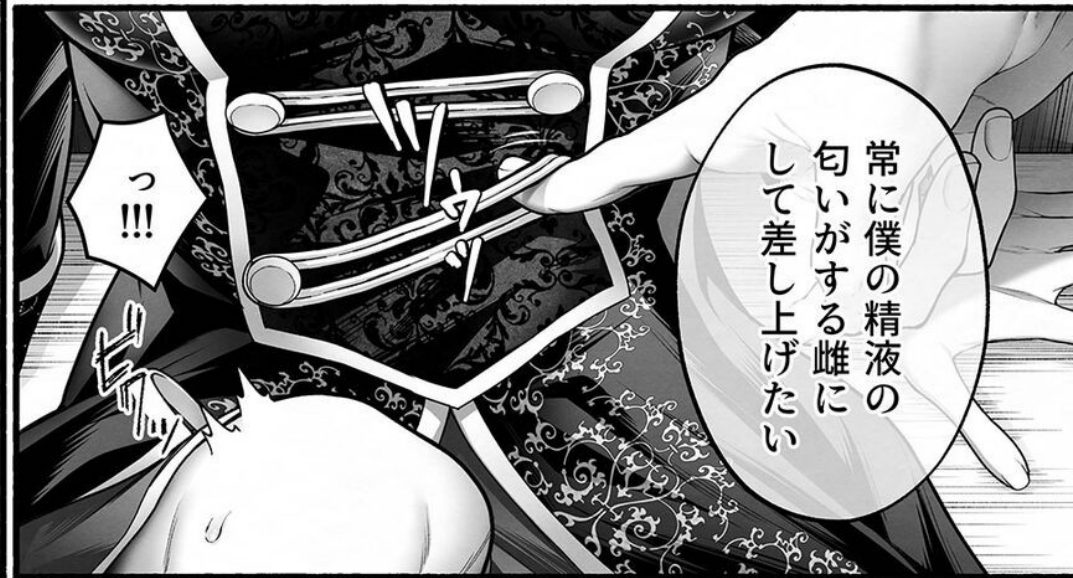
眼前の男はずっと  
そんな事を考えて  
いたのですよ

あっ!!



ここも  
しっかりと躰けて

僕のを  
啜え込んでいないと  
落ち着かないような



常に僕の精液の  
匂いがする雌に  
して差し上げたい

っ!!!



しかし  
そういう表情は  
男を煽るだけです

お気をつけ  
ください



怯えていますね  
怖いですか?

ほら  
こうすると  
どこまで入るか  
一目瞭然でしょう

!!

ふふ  
恐ろしいくせに  
そんなに興奮して…

貴女は本当に  
感情を隠すのが  
下手ですね

世キ

世キ

ご安心を  
ちゃんとこの後  
胎の中まで犯して  
差し上げます

なにを……

貴女は僕が  
貴女の上辺だけ  
しか見ていない

本当の貴女を  
見てはいないと  
考えているでしょう

!?

しかしそれは  
貴女の方です

だから  
教えて差し上げると  
言っている

本当の僕と  
いうものを

アル、待って……

っ!!

貴女を手に入れるために  
完璧な王子として  
振る舞ってきた男の

醜い本当の姿を  
お見せしましょう

アル…?

…ア



ほらそのまま  
触ってください  
僕の熱を



今までは  
頭の中でのみでしたが…  
もう我慢などしません

っ  
待ってっ



ああ…  
美しい手だ

ずっとこうして  
汚したかった



孕むまで何度でも  
最奥を僕の子種で  
満たし

…は



貴女に嫌われようが  
閉じ込めて

醜い僕を  
刻み付けるように  
犯しましょう

僕だけのものに  
いたします

は…

あ…っ





後で替えを  
届けさせましょう

ああ  
制服も汚して  
しまいましたか



貴女に触れられると  
一瞬ですね…

大変失礼  
いたしました



…おや



っや  
まっ

はっ





あ!!?!!

ふふ  
奥からどんどん  
出てきますね?

ゆ、ゆび、指…ッ  
抜いてっ…!!

これだけ溢れ  
させながら仰られても  
説得力がありませんよ

とろろお〜…♡

それに



こんなに淫らな穴を  
お持ちだったとは  
驚きました

メアア!!



貴女のここ  
ヌルヌルで

入れる時は  
柔らかく  
受け入れて  
くれるのに

ほら



抜こうとすると  
ぎゅうぎゅう  
締め付けてきます

男の精液を  
搾り取る動きだ

ぎゅっ♡  
ぎゅっ♡  
ぎゅっ♡  
ぎゅっ♡



そこ変っ

そこ、変…っ

一番奥に届いて  
しまいましたか

嫌だと言いながら  
子宮が下がりがかけて  
いますよ？

いやらしい体ですね

このまま沢山感じて  
子宮口を  
下ろしましょうね

しっかりと今日  
僕の子を孕めるように

っ?!

っだめ

待って  
アル…っ

嫌ですか？  
では感じるのを  
やめて頂かないと

ほら

僕の指で簡単に  
こねられる場所まで  
下りてますよ？

や…っ

やだ…あつ

貴女の胎は  
僕の子を  
孕みたいようだ

あつ

あつ

めぢゅっ♡  
めぢゅっ♡  
めぢゅっ♡

まっ

まっ

アルッ



ほら

はしたなく  
絶頂する姿を  
僕に見せて？

ソフイ

ハッハッ

ハッハッハッ  
ハッハッハッ

ハッハッハッ

ハッハッハッ

ハッハッハッ  
ハッハッハッ



はっ、♡

はっ、♡













はは、子宮口に  
ハマりましたね

…このまま  
中に出しますよ

は…  
なか…?



ほら…僕の自慰を  
思い出してください



アッ!!?

あっ…あ

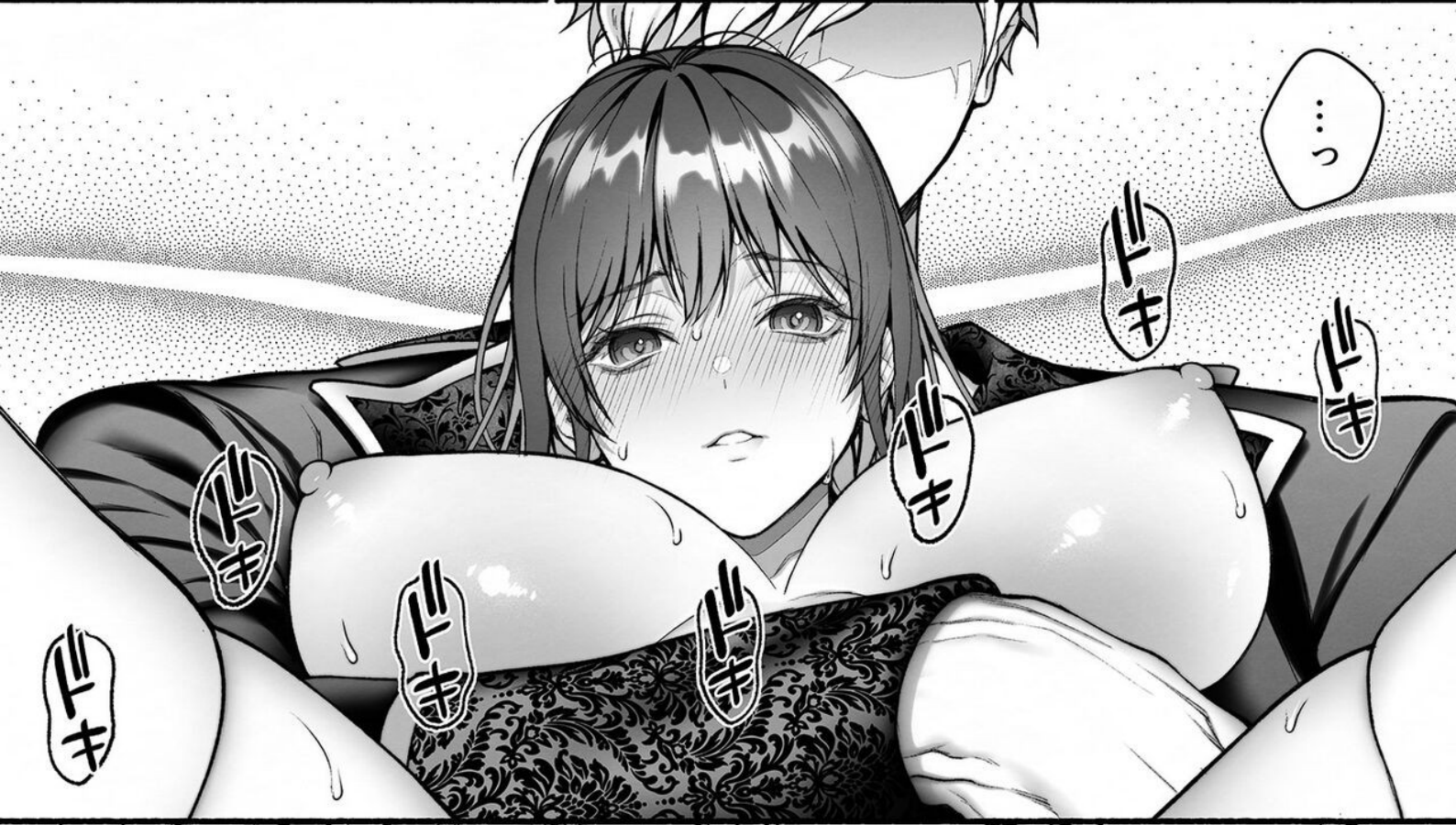
ああっ……!



今貴女の中でも  
同じように  
出ているんですよ

…あ

ハッ  
ハッ





嫌いな相手に  
このように  
されては

え？



…可哀想に  
こんな手酷い  
抱かれ方をすれば

もう元の清らかな  
姫には戻れませんね



嫌い…って  
一体…

離れていこうと  
したではないですか

僕の感情は作られた  
ものだど仰って  
否定してまで…



それでも  
かまいません

違…っ  
やあっ



さらにこんなに  
酷い犯され方をすれば…  
殺意すら覚えるかも  
しれませんね…っ



あっ♡  
あぁっ…♡

あっ♡  
あぁっ

あっ♡

あっ♡



っ…  
それって…っ  
どういう…っ

ふふ  
理解できませんか

言葉通りですよ  
貴女が抱く感情の  
全ては僕に向かう  
ものであってほしい



貴女の全てが欲しく  
なってしまうのです

愛情も、憎しみも  
殺意すらも



それが僕の  
愛し方です

幼稚で歪んでいる  
でしょう？

アル…

ゲームのステルに  
こんな苦しそうな  
アルの表情はなかった

これから王に  
なる者として

こんな愛し方をしては  
いけないと自制して  
きたつもりでした

それなのに  
僕と同じように貴族として  
自分を律していたソフィ

あなたが

おとぎ話の  
王子様のように完璧な  
アルベール・ド・ヴァロワ様



あまりにも  
可憐に、素直に

僕に笑いかけるから…



アル…

本当の自分を  
隠して生きるのは  
どれだけ  
つらかったんだろう



お喋りが  
過ぎましたね

きちんと  
覚えてくださいね  
僕を  
僕の形を…

言葉だけでなく  
体でも分かって  
いただきますよう

ツ!  
!?

あ、ひっ  
やだっ

そこや…ッ

やめて…

く、あっ

あぁっ…おっ

おく、だめ…っ

また  
いつちや…ッ





そうです

貴女は今  
大嫌いな僕に  
犯されているんですよ

…ッアル

アル…っ

あっ

ひ、あっ

つじや、ない…っ

あっ

あっ…



え?

嫌いじゃ  
ないです

好きっ

大好きです  
アルベール!!



嘘だ！



…嘘だ

嘘じゃ  
ありませんっ



信じられる  
わけがない！

ではなぜ  
僕の告白を  
断ったのか！

そ、それはっ

本当ですっ

信じて、アルっ

っ…

あっ♡

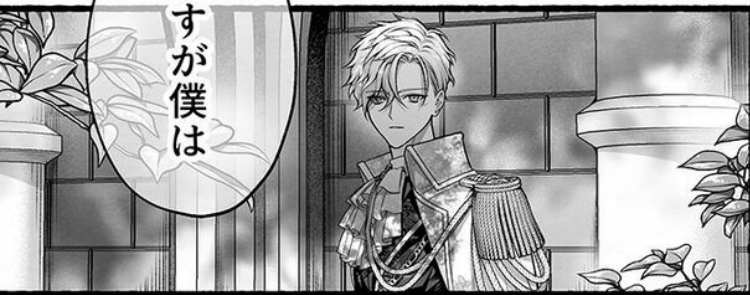
あっ♡

ズッ  
ズッ  
ズッ



何をしても完璧なソフィは確かに魅力的でした

ですが僕は



そんなことは…ありません



たとえ完璧に出来ない事があっても

いつも真っ直ぐでひたむきに頑張る姿にこそ惹かれたのです



本当の私じゃっ

アルに愛してもらえないからっ





僕が恋したのは  
あなたです



あなたに

恋をした





好きな人に欲情されて  
あんなに求められて…

嬉しくないわけない  
じゃないですか…っ!!

かま

!?

な…っ!?



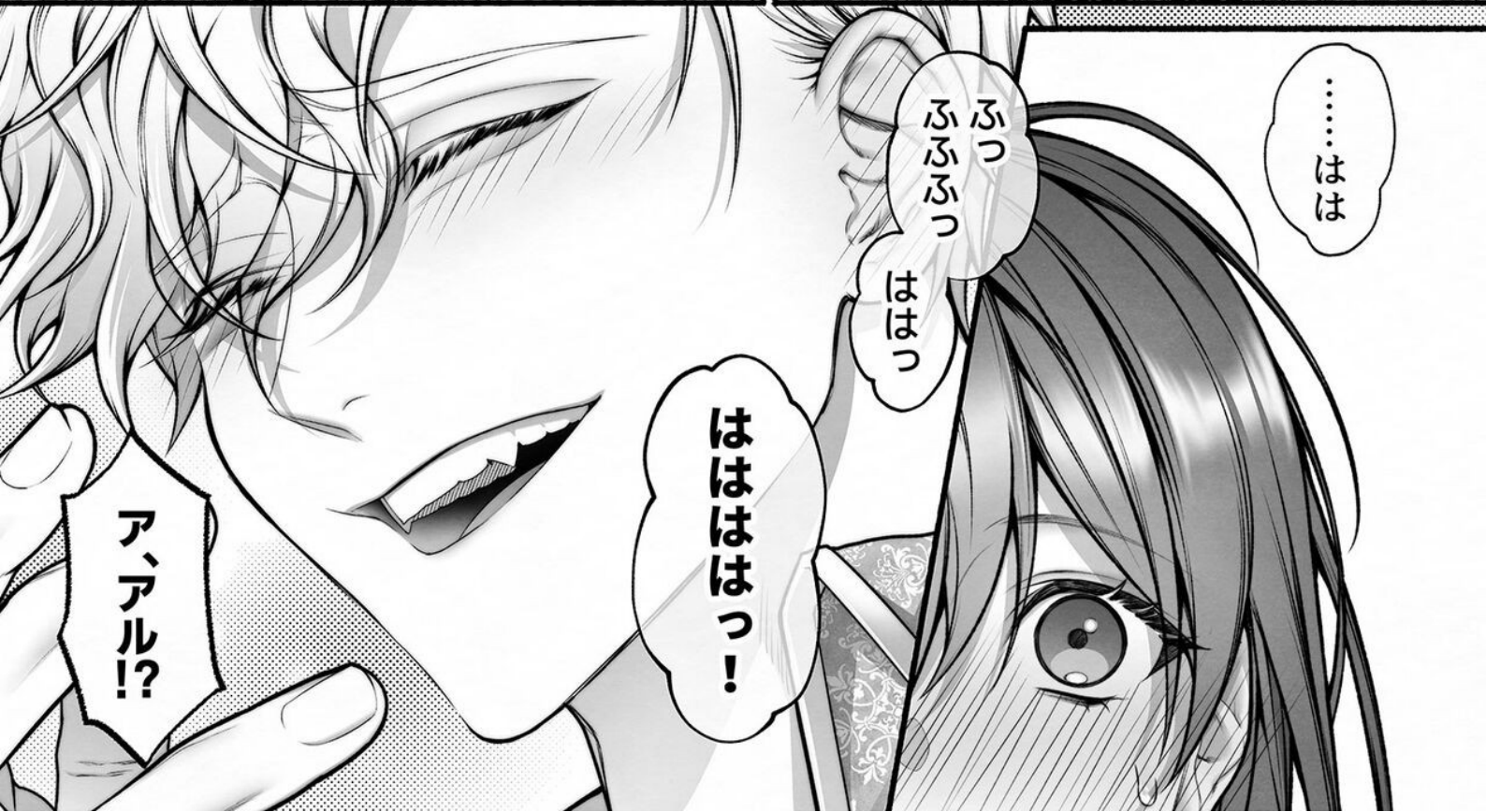
僕にこんな  
ひどい事をされたらと  
いうのに一体何を…

…いやそもそも  
貴女は一体今まで僕を  
どういうイメージで  
見ていたのですか

それは…

いつも爽やかで王子様然  
としていたので…  
その、そういう欲とかも  
ないのかなって

私だけが  
俗物なのかと…



…はは

ふっ  
ふっ  
ふっ

ははっ

ははははっ!

ア、アル!?



いえ  
申し訳ありません

どうやら僕も本当の  
貴女というものを  
まだよく分かって  
いなかったようです

う…

俗物…

私だって  
年頃の娘ですし

好きな人のことを  
考えれば…その  
ムラムラしたりしますよ



マイ

マイって言います



ふふ  
光栄ですよ  
ソフイ

…いえ



あなたの本当の  
名前を伺っても？

あ…



マイ

素敵な  
お名前ですね

マイ

やり直させて  
いただけませんか？

既にかかなりの無理を  
させてしまっているのは  
分かっているのですが

それでも

あなたをちゃんと  
愛させてほしい

アハハハハ



ん…ん



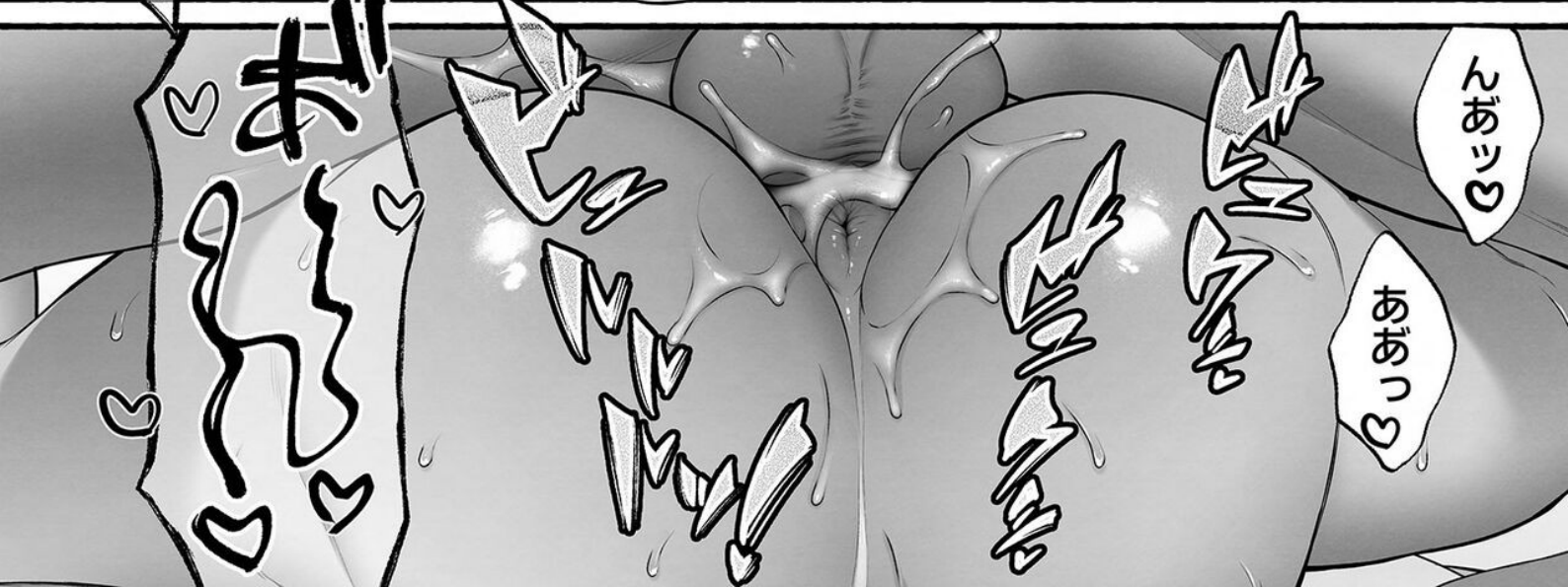
ん…ん

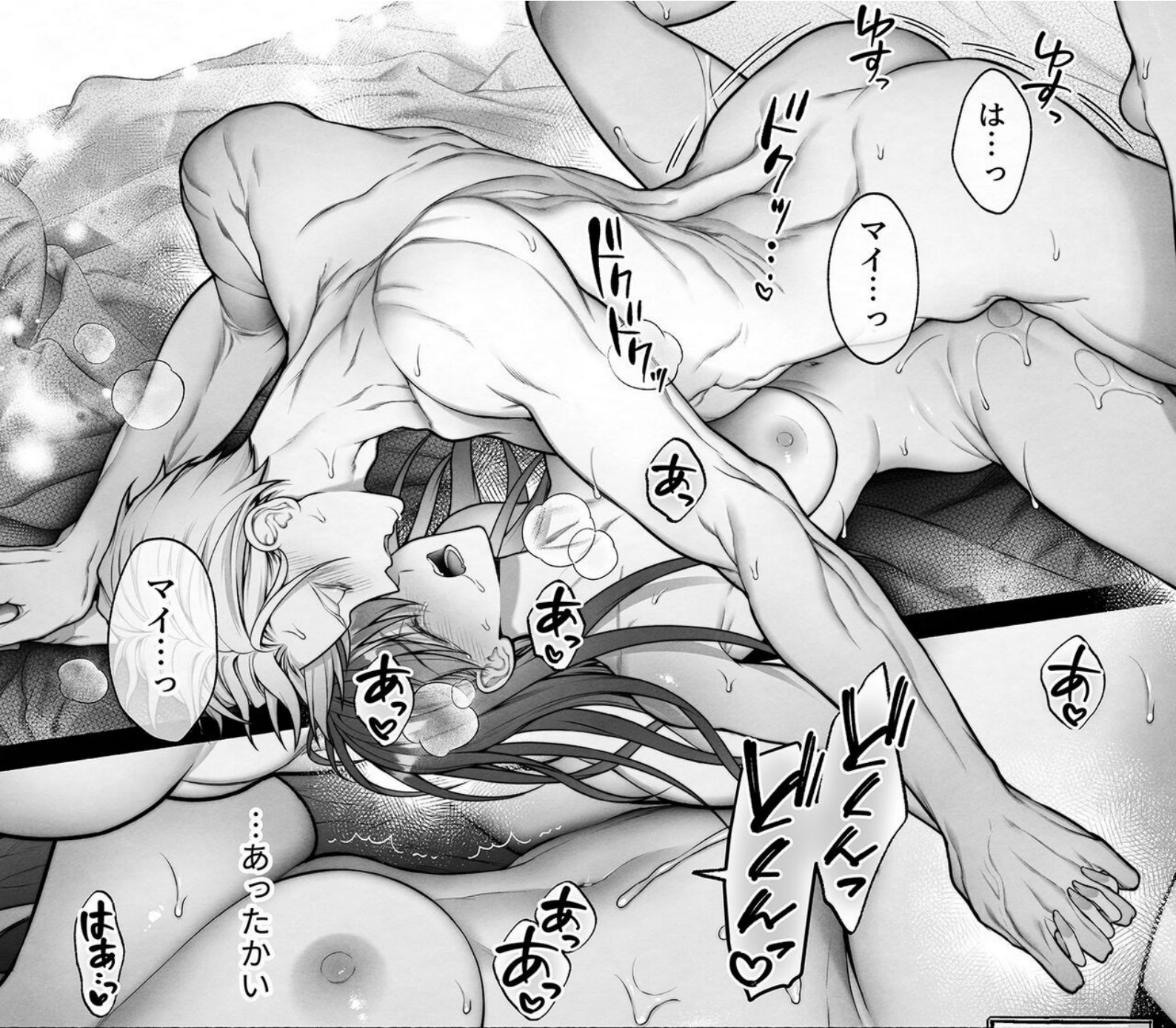












は……っ

マイ……っ

ヒクヒク

あ

マイ……っ

あ

あ

あ

ククン  
ククン

あ  
あ

……あつたかい

は……っ

今ここに居るアルは  
ゲームのキャラなんか  
じゃなく一人の人間なんだ

おとぎ話の王子様みたいで  
でも完璧なんかじゃなく

ちよつと弱い  
ところもある男の人

あ

！！



ア...  
...アルが告白  
してくれたとき

?

私を好きなわけ  
じゃないなんて

気持ちを疑うような  
発言をしてしまって  
ごめんなさい

!



急にどう  
したんです

.....



私もさつき  
アルに好きと伝えて

でも嘘だと言われたとき  
とても辛かったので...

今更ながら  
ひどい事を  
したんだなって...

ア...



ふふ、言質は取りましたよ？

私に出来ることでしたら何でも言ってください！

土下座でも靴磨きでも！



きゅん

お詫び？

…では何かお詫びでもしていただきませんか



は！

ニッ

…そうですねではあなたの自慰も見せて頂くことになってしまうよう



な、ちよまつ心の準備が…

さ、ほら早く僕もお手伝いしますから

い、いやさういふのじゃ…

何でもしてくるんですよね？

HAPPY END

読んでくれてありがとうございました！  
一見爽やかな王子の自慰シーンが描きたくて描き始めた本でした  
(あれが自慰というのかは微妙ですが…)  
男性の自慰が好きなので同じようなネタを既に何度も描いているのですが  
性癖なので今後も隙あれば何万回でも描いていくと思います。  
女性の自慰(からのオナバレ)も大好きなのでいつか描きたい…。

相変わらず遅筆で前作から大分間が空いてしまいました  
次の本は出来れば冬頃に出せたらなと考えております。  
もし好みに合いそうでしたらまたどうぞよろしく願いいたします！  
(自慰本ではないです)



びた/OVERKILL

X (Twitter)→[https://twitter.com/bi\\_\\_ta](https://twitter.com/bi__ta)  
pixiv→<https://www.pixiv.net/users/55228542>

カバーデザイン：日村克美様  
(Twitter：@lamp\_hymura)

ADULTS ONLY

R18+

18歳未満閲覧禁止

転載禁止・転売禁止

DO NOT REPOST / RESELL

本書の複製・複写・Web上へのアップロード禁止

## おまけ初期設定

ソフィはほぼ同じデザインですがアルはかなり変わりました  
最初はもっと固い感じの生真面目キャラだったのですが  
豹変した時のギャップを出したくて  
ふんわりとした優しい感じのキャラになりました。  
でも髪型までふんわりさせなくて良かったかもしれない…  
ウェーブ髪って描くの大変ですね…







カッ  
カッ  
カッ

カッ  
カッ  
カッ

いつも天真爛漫に  
笑っている彼女が  
泣いていた

普段は隠している姿だ  
誰かに見られたくは  
ないだろう

元々彼女のことは  
好ましく  
思っていたけれど…

彼女を傷つける  
全てから守りたい

不安を取り除いて  
差し上げたい

と同時に…

は…

は…



.....

ぐっ

くっ...

ぐっ

ぐっ

なぜ収まらない.....

ぬち



.....

自分はけして  
こんな男ではなかつたはず  
こんな.....



どうしても  
あの泣き顔が頭に張り付いて.....



待って

中には出さないで……



守りたいと思った彼女を  
僕は脳内で犯すのか



あ……  
た……

いけない 収めないと 失礼だろう 彼女に



だめだ だめだ だめだ だめだ……

こんな……  
彼女を汚すような行為



あ……っ

出したい……出したいっ

貴女の中に……っ



は、あ……っ  
ソフィ……っ

すみません……っ



あ、ぐ……っ

は、あ……っ

ソフィ……っ

ハッ

想像の中とは言え  
彼女を犯して  
果ててしまった…

僕がこんなことを  
していると彼女が  
知ったらきつと

これまで僕に  
向けられていた笑顔は  
歪むだろう

軽蔑して  
逃げるだろうか

こんな僕の姿を  
知ったら…

ごめんなさい  
ソフィ…

すみません…




ごめん…

……



……おじい



もう貴女を  
離してはあげられない

はあ……

ここまでお読みいただきありがとうございました！  
アルがソフィ(マイ)を好きになった瞬間(性欲を感じた瞬間)からの  
自慰をどうしても描きたかったのでおまけで描けて大満足でした。  
以下こういうアルが描きたかったという解説？です。

これまで生理的に勃起することはあったものの  
誰か「対象」を思い浮かべて性欲を感じたことが無かったので、  
初めての経験(性欲もそうだけど物心がついてから初めて  
自分の意思で感情がコントロールできない出来事に遭遇した)に困惑。  
しかしこの衝撃的な経験に運命を感じ、主人公が自分にとって  
最初で最後の女性だろうと勝手に確信。  
絶対に逃げられないように虎視眈々と周りを囲んで  
逃がさない事を決める。  
(からの主人公のメタ発言&感情否定ともとれる発言で乱心する。)

まだまだ今後の作品でも隙あらば自慰を描いていく所存ですので  
見かけた際には生温かい目で「あいつまたやってるな…」を  
見守って頂けると嬉しいです…。

それではまた次作で！

